

2024年 一年間ありがとうございました

令和6年（2024年）が閉じようとしています。

未来を生きる子どもたちが輝くために、いま学校ができることは何かを考え、取り組んで参りました。

本校の校庭に立つ桜の木をシンボルとして、

- ①土台（根）となる学習習慣、生活習慣を身に付けること、
- ②基礎（幹）となる基礎学力を身に付けること
- ③個別の（枝葉）思考力・判断力を身に付けること
- ④集団の（開花）協働力・実行力を身に付けること

に取り組んで参りました。



①→4月に各学級での規範意識の醸成に努めました。

②→3学期制を2学期制に変えて、学習進度・達成度の確認や補充の時間を作りました。

③④→えいスポや日常活動に子どもが自ら考え、話し合い、活動するプロジェクトを導入しました。子ども全員会議を行い学校全体で話し合う活動を導入しました。自学や自由研究発表会も行いました。2月の学習参観では、1年間の学びの成果が発表できるように努めます。

まだ、すべての子どもの学びまでは至っておらず、十分な活動成果であったとは言えませんが、毎年一歩ずつ前進していると感じています。3月には、一人一人の花が開花できるよう頑張ってお参ります。

ご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

○ 登下校の見守り活動へのお礼

12月に起きた中学生の死傷事件に伴い、保護者の皆様の登下校の見守りのご協力誠にありがとうございました。学校も登下校の見守りや一斉下校などして参りました。警察の方も校門に立ち、パトロールも強化していただきました。市職員の方の見守り巡回もありました。子どもたちを守る大人のご協力に感謝いたします。

犯人が逮捕されひとまず安心していますが、今後も子どもの安全確保や心のケアに努めて参ります。

今後も保護者の皆様の、ご理解ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

○ ボランティア感謝の集い

PTA主催で、ボランティアの方々に感謝の集いを開いていただきました。初めての集いです。

本校のボランティアは、ブックヘルパー、読み聞かせ「お話玉手箱」、フッ化物洗口、そして、えいスポの全学年のダンス指導の中元先生などがおられます。PTA役員の皆様もボランティアです。

6年生の代表4人がお礼の挨拶をしました。6年生全員のお礼の言葉が入ったお手紙のサプライズもありました。紙を見ないで呼びかける心のこもった挨拶に涙される方もたくさんおられました。

ボランティアの方々は、ボランティアすることで学校がしていることが分かるし、子どもたちの頑張る姿が自分たちの励みになっていると話してくださいました。

○ 交通安全見守り隊の方へ感謝の集い

12月23日(月)いつもお世話になっている見守り隊の方々へ感謝の集いをしました。体育館で、2・4・6年生代表児童がお礼の言葉を述べました。

見守り隊の方は、暑い日も寒い日も、暴風雨の日も、

黄色のジャンパーを着て、子どもたちを見守って下さいます。本当に感謝しかありません。

また、保護者の方々も家の近くで黄色い旗をもち見守って下さっています。本当にありがとうございます。

○ 門松設置のお礼

男性の保護者の方に12月末に毎年恒例の門松の設置をしていただきました。「なんでお正月じゃないのに門松があるの?」なんて尋ねてくる子どもたちもいました。

門松は、新年にやってくる歳神様が家に降りてくる際に、目印にしているといういわれがよく知られています。

門松がある永犬丸小学校は、来年もたくさんの幸福が訪れることでしょう!

○ 3年生火おこし体験、6年生餅つき体験

永犬丸小は、素晴らしい地域の方に守られています

地域で行われた餅つきに、6年生が参加させていただきましたが、全員が餅つき体験と餅を丸める体験をさせていただきました。

3年生は、体育館での昔遊び、プール横での七輪を使った火おこし体験を手伝っていただきました。

ご協力いただきました地域の方々、保護者の皆様ありがとうございました。仲の良い子どもたちの姿にも感心しました。

○ 生活がんばりカード

冬休みの生活がんばりカードを配布しています。冬休みは大掃除や、新年を迎える準備など家族で取り組めるとよいと思います。

○ 学習参観・清掃ありがとうございました

保護者の方と子どもたちで学校を掃除していただきありがとうございました。気持ちよく新年を迎えられます。

子どもとの話し合いをうまく行う方法

子どもが成長にするにつれて、話し合いは重要です。

親は、自身の期待を明確にした上で、子どもの要望を聞き、譲れるところと譲れないところを話し合い、決めていかななくてはなりません。

今回は、子どもがゲームの時間を守れず、すべきことをできずにいる問題を例に挙げ、話し合いのポイントを考えます。

①問題の本質を整理しよう

子どもにとって、ゲームやスマホ、YOUTUBEなどは、楽しいものです。また、悪いことばかりではありません。PC やスマホを使いこなすことで将来の仕事につながることもあります。

しかし、ゲーム依存や中毒症状になる子どもが増えていることも事実です。やるべきことをやらずに、睡眠時間を削って、ゲームに飲み込まれ、自己コントロール力を失ってしまう子どももいます。

そして、このような状態では、大人がなだめたり、褒めたりしてやめさせようとしても逆効果です。さらに、とんでもない時間ゲームをやり続けたり、危ないサイトに入り込んだりすることになるかもしれません。

こんなときは、腹をくくって子どもと向き合い、子どもの声も聞きながら、話し合うことが必要なのです。

②子どもの声を聞き取ろう

子どもは、大人はゲームをさせたくないことを知っています。だから、逆に素直に子どもの気持ちに寄り添い、話を聞いてもらったら驚くはず。そして親の話に耳を傾けるようになるでしょう。

だから、話は頭から否定せず、一度受け止めて、「わかるよ」、「そうだね」と共感的に聞いていきましょう。

そうすると、子どもはゲームの何が楽しいと思っているのか、別のものに代替えできないのか、やり方を変えられないのかなど、色々なアイデアが浮かんできます。

③メリットを考えよう

ゲームやスマホの良さはたくさんあるはず。ここは子どもの意見に耳を傾け、良さは良さとして認め、話し合いに生かせるデータ収集を行います。

④デメリットを考えよう

子ども自身もゲームの怖さや中毒性はよく知っています。自分のすべきことが疎かになること、大切な健康を害すること、引き返せなくなる不安でイライラするなど、他の事例も上げながら子ども自身の言葉で整理させます。

ゲーム依存は、自分だけでなく、家族の幸せを壊す可能性もあることにも気付かせたいですね。

⑤どうするかを決めよう

子どもにゲーム過多を我慢させるためには、親から愛されているという安心感が欠かせません。親の期待に応えたいから、我慢できるのです。

ここでは、自分でルールを決めさせて、決めたルールを守るためにどうするのか、守れないときはどうするのか事前に考えさせ、宣言をさせます。

ここからは、さらに大人も覚悟が必要です。子どもの未来を信じて、寄り添い励ましていきましょう。You can !

時は金なりというから



スマホやゲームは楽しいけど
時を消費していると考え、
お金の換算してみる。

睡眠不足も消費だね

というのは
どうだろう...

一方で子どもにとっては
お仕事と言える



① どのくらい時間

② お手伝いの時間

③ 家族との団らんの時間

④ 学習の時間

を収入と考えてみては
どうだろう...

そうすると...

収入より消費が多いと
赤字が
カーン

